

今井祝雄 *Norio IMAI* ON THE PIANO

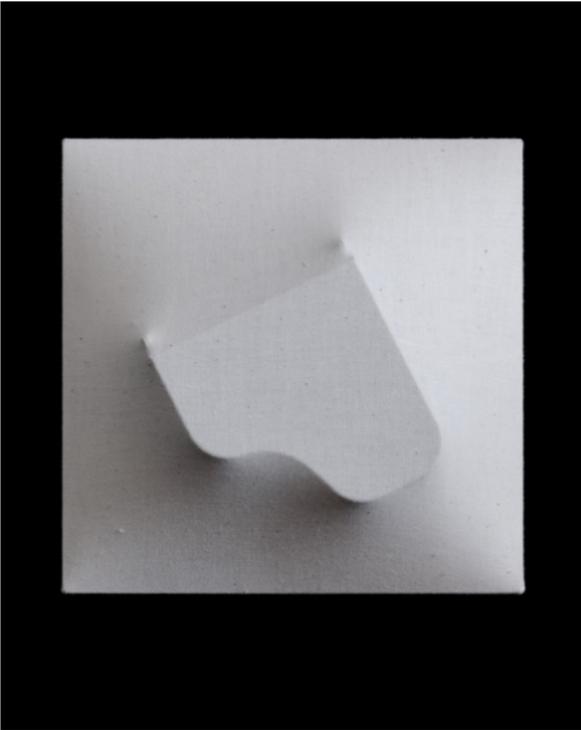


photo:表 恒匡

パフォーマンス 『ON THE PIANO』

5月6日(月祝) 17時～

出演 | 今井祝雄 / Yangjah

ピアノの上に張られた布の中で「踊る」ダンサー。その動きと、変化する過程を見せる新作パフォーマンスとなります。

ギャラリー上方から定点撮影を行い、その後の会期中はビデオで上映致します。

2013年5月6日(月祝)～5月26日(日) (13日, 20日休廊) 12:00～19:00 (最終日～17:00)

一枚の布に覆われることで物質性が消去されると同時に、形の一部が浮かび上がることで顕れる新たな存在感。

今井祝雄の『記憶の陰影』(Shadows of Memory) シリーズは、既成品をそのまま基底材として白の布を覆い、そのボリュームに見合った比率と大きさで作品が形づくられます。布の起伏による白い表面と技法においては、初期のレリーフと似たイメージを想起させますが、布の中を意識化させるという点で異なるものです。

テーブルの上に張られた白い布の中で「踊る」ダンサーが、動きの中で変化する過程を、天井から100カット以上の連続写真として定点撮影する「パフォーマンス・アート」作品。ハードな物質でなく、生身の身体表現による「記憶の陰影」パフォーマンスは、一過性の動きを一瞬ごとに見せる作品集として、『ON THE TABLE』(2010年、樹花舎発行)に収められています。

今回、ギャラリーあしやシューレの個展においては、グランドピアノ上に張られた布の中で「踊る」新作パフォーマンス『ON THE PIANO』をはじめ、2008年以降の『記憶の陰影』Shadows of Memory シリーズ19点を展示致します。

今井祝雄の作家歴50年目を迎える会期となる今回の展覧会は、また、作者が最年少会員だった「具体」の発祥地・芦屋での初個展です。皆様のご高覧をお待ち申し上げます。

Norio IMAI's Shadows of Memory series have the white rolling surface containing the same image that he has expressed, but it also lets us aware of the inside of the cloth.

19 works and the new performance "ON THE PIANO" are included in the exhibition in Ashiya, where "Gutai"- the Japanese avant-garde movement- was born. The artist took part in it as the youngest member.

During the opening at the gallery, Norio IMAI will do his performance ON THE PIANO with dancer Yangjah.

今井祝雄 Norio IMAI

美術家。 1946年大阪市生まれ。

大阪市立工芸高校在学中から吉原治良に師事し、1965年から1972年解散まで具体美術協会会員。

1966年第10回シェル美術賞一等賞受賞。以来、パリ青年ビエンナーレはじめ東京国立近代美術館、芦屋市立美術博物館など、内外の企画展に出品、現在に至る。

1980年以降、新大阪駅前、関西文化学術研究都市、京阪坂本駅、大津市役所沿道などにパブリックアートを制作、住吉万葉歌碑（住吉大社）、永田耕衣文学碑（加古川市）も手掛ける。また、近江八幡のボーダレス・アートミュージアム開設に尽力。1944年、神戸に竣工した「夢創館」を構想設計。翌年、阪神・淡路大震災で難を逃れた同館にて「創造にむけてのガレキ」展を開催するなど、アートからの社会的展開を実践。

著書に『白からはじまる—私の美術ノート』『デイリーポートレート—四半世紀・記憶の日記』『オン・ザ・テーブル—パフォーマンス・イン・ブック』のほか『へたっぴんの美学—高鍋大師保吉翁の世界』が再刊。

今春、ニューヨークのグッゲンハイム美術館における「具体：素晴らしい遊び場」に出品（2013.5.8まで開催）、またベルギー・アントワープのAxel Vervoordt Galleryにて、今井祝雄展—白のイベント（2013.3.14—4.21）開催を機に、作品集『NORIO IMAI』（Axel and May Vervoordt 財団：ベルギー）が刊行された。



ON THE TABLE / Antwerp, Dancer: Taqa SHAMOTO

Courtesy: Axel Vervoordt Gallery, Photo: Viktor Bentley

Yangjah(やんぢゃ)

日本生まれ、大阪暮らしのコリアン・ディアスポラ。19歳で日本の外のアジアに飛び出しカラダひとつでできることを求めるようになり、さまざまなボディワークやダンスを学ぶとともに1998年から舞踏をはじめ。

日常と非日常を行き来する儀式的時空間をパフォーマンス表現し、インスタレーションや映像なども制作・発表している。

ビデオカメラの眼でダンスをとらえるプロジェクト・巡海 Project <投影/計画>「うみみず」(2009-) や「bodyscapesketch project」(2011-) 及びサウンド・アーティスト Jerry Gordon や海外からのアーティストとの即興パフォーマンスイベントを共同企画している。

築港赤レンガ倉庫にてNPO 大阪アーツアボリア「Clean Artists' Project」(2004年)、「ART Container」(2005年) 韓国・ソウル Overseas Koreans Foundation 「Arts Koreans Overseas NEW VISIONS」(2005) 韓国・春川「Chuncheon International Mime Festival」の「Dokkebi Award」(2006)

大阪アートカレイドスコープ 2007 にて Charles-Eric Billard とパフォーマンス映像作品『Alien Strings』(2007) アメリカのシアトルにてパフォーマンス公演やパフォーマンス映像作品を制作(2007) 韓国・光州 Memi Space「Asia Culture artist residency program」(2010) 韓国・光州 Ugro/Mite「Asia Young Artist Festival」のレジデンスプログラム(2011) 中国・広州の53美術館「A as A Project 2012 in Guangzhou」(2012) 韓国・釜山「Flower Village International Performance Art Residence」(2012) 韓国・居昌「The 23th Asian Monodrama Festival」(2012) 韓国・ソウル「Mulle International Art Festival」(2012)